

CITY & LIFE

都市のしくみとくらし

1984・初夏号

vol.2



特集

都市公園

日本に、年あまり。公園は、ひとつに、とくに、日本人も、生活に、そのニーズは、高まるばかり。一方、数・面積という現実面からみると、公園の先進諸国である欧米と比べて、日本はまだ不足している。また、利用のされかたも、十分とはいえない。そこで、都市と生活にとって公園のもつ意味、役割、また未来像について、考えてみたい。

本格的な都市公園が誕生してから百。日本人の生活を支える重要な要素の、高度経済成長期をすぎても、ようやく、生活に対する余裕を取りもどすようになり、そのニーズは高まるばかり。



セントラル・パーク Photo 橋本功司

contents

特集 都市公園

- セントラル・パーク物語／村上むつ子
- 〈座談会〉いま、公園抜きに都市は語れない
佐藤昌・田笠端・高見澤たか子
- 〈マンウォッチング〉東京公園生活
- 〈遊歩者の眼〉夕闇迫る神保町／尾辻克彦
- 風土と造園様式／鈴木昌道
- 造園の博物誌／鈴木博之
- まちづくり思い出ばなし①／高山英華
- information／後記

表紙絵 Ralph Fasanella

セントラルパーク物語

村上むつ子



photo 横本功司

何回出会ってもそのたびに否応なく気持ちが揺さぶられてしまう、そういう相手が時にいる。ニューヨークもそういう街である。次々にやってくる新参者たち、その人々が、持ち込む自由や富への憧れや夢、成功や失敗、超一流の文化と同時に腐敗や貧困を全て混然と包みこんでいるせいだろうか。街の表情は優雅であり凄絶、すましているかと思えば慈悲深い。

マンハッタンのまん中にあるセントラル・パークもこの街を凝縮したような断片である。公園の南に接するセントラル・パーク・サウス通りには富と繁華の香りがする。高級ホテルが立ち並び、交わる五番街と比べても見おとりがしない。反対側のキヤセドラル・パーク・ウ

エイからはスバニッシュ・ハーレムが広がり、そこには貧しいが人情と活気に満ちた生活がある。

公園を見ると人は思わず足を中に入れてしまう。四方を開む通りには無数の入口があり、緑深い木立ちの間を丘へ、谷へ誘う道がのびているからだ。小山の向うには湖や貯水地、広場や劇場、そして動物園が点在しているが、人の足では簡単には回り切れない。見えるのは林、そしてまた林である。小道が縦横に駆け巡り、散策している人やジョギングをする人が行きかう。時おり見え隠れする車道には、観光客をのせた馬車が行く。

桜が開くころ、セントラル・パークは人で賑う。裕福な家の女主人だろうか、ブードルを連れた散歩姿が美しい。ジュリアードの学生が管弦楽を奏でるかと思えば、一つ小山を越えた所ではロックの鳴るデッキを片手にした若い父親に率いられて、黒人の一家がピクニックを楽しんでいる。

夏の夕ぐれはオペラだ。野外劇場への切符を買いそこなったら、毛布とワインをもって劇場の周りの芝生に寝そべって、夜空に広がる音を楽しむ。人影の少ない夜間や冬に一人で散策は危険だが、雪に包みこまれた公園の風情もステイグリッツの写真に現われるように、またこの上ない。

大広場では季節を問わず、思い思いの集会所が催されてきた。ゲイの人々の大会、反核集会、女性の集会、ジョン・レノンの追悼会——そのたびに集った何十万人もの人々の訴えや叫び、涙や喜び、共感や反目、その全てが歴史となつてこの四角く切りとられた大地に吸収されていった。

セントラル・パークに立ち、この公園が、この街が二百年もの間見守ってきた人の営みに思いを馳せる。と、やはり、目の前に在るのは、あの否応なくこちらの胸をつく相手なのである。むらかみむつ子(ジャーナリスト)

高見澤 最近のように全国的に都市化が進んできますと公園の役割というものは昔とはずいぶんちがってきているのではないかと思います。そこで歴史的にみて公園はどんなものであったのか、そしてこれからはどんな役割を私たちの生活の中で果すものなのかを先生方に伺いたいと存じます。まず佐藤先生に公園の歴史をかいつまんでお話しいただきたいのですが。

はじめに公園ありき……

それは、都市計画より前

佐藤 公園ということばは日本ではまだ新しく、今から一〇〇年ほど前、明治六年の太政官布達で定められたのが最初です。当時の為政者は偉かったと思います。というのは、ほぼ学制発布と時を同じくして、公園をつくれ、といったわけですね。従来庶民が集まってくるような場所を公園に指定しろというものでした。たとえば金亀山浅草寺とか上野の寛永寺とか、深川の八幡様とか……

高見澤 江戸名所でございますね。

佐藤 ええ。要するに無税地即ち国有になった大名や寺院がもっていた土地を公園にしたわけですね。それが上野公園であり浅草公園であるわけです。大阪の住吉公園とか奈良公園とか松島もそうです。

もともとそれ以前に、殿様が庭園を開放して公園のように一般に使われた例がありましたし、また神戸や横浜の外国人居留地に、外国人用のテニスコートやクリケット場や馬場のある公園ができていましたが、それで明治

公園として開放すると同時に、公共施設として公園を計画的につくるようになってきたのです。

佐藤 近代以前にも、庶民の楽しみをつくるという親心みたいなもので開放する動きがあり、一番古いのがパリのリュクサンブール宮殿で、一六〇〇年代に一部開放されています。フランス革命後はルーブルなども開放されています。そういうことは日本でもあって、徳川吉宗が今の飛鳥山公園を庶民の行楽の場としてつくっています。

庶民のあこがれの場から

生活上必要な場所へ

日笠 イギリスで面白い話があるのですが、バースという町で、一七二四年にジョン・ウッドという建築家がクインズスクエアとかロイヤルクレッセンドという名の建物を設計しているのです。それは前に大きな庭園があって、外見がまるで宮殿のイメージなんです。ところがその中身は要するにアパートです。これなんか、いかに宮殿と庭というものに魅力があつて、庶民はそれを自分のものにしたいという根強い願望があるかを物語っていますね。

高見澤 そうした庶民のあこがれとして宮殿の庭とか大名の庭園とか一つのお手本になって公園ができてきたのでしょうが、その役割がだんだん変化してくると思うのです。その辺はいかがでしょう。

日笠 日本で一般の人々の公園に対するニーズが高まってきたのは最近じゃないですか。昔は道路をつくるというわりに歓迎された。ところが今は道路は公害があるから必ずしも歓迎されない。高度成長を遂げて生活も豊かになった中ではじめて緑のある環境を、と要求するようになったのじゃないですか。

佐藤 イギリスでも公園をつくれ、という声が大きくな

初年に法定された公園というものの概念は、社寺の境内とか、兼六園とか後楽園のような殿様のお庭をそのまま公園にしてしまったというもののようです。

日笠 だから、都市計画より公園の方が早いんですね。

佐藤 そうです。都市計画によって、ここにあらたに公園が必要である、という形でできたのは明治三十六年の日比谷公園が初めてです。

日笠 ヨーロッパは歴史が古くから別として、アメリカの例をしらべてみますと、都市計画法などができる前に公園屋さんが活躍しているのです。たとえば一八八〇年代にオルムステッド（ニューヨークのセントラル・パークの設計者）などという人がアメリカの主要都市の公園緑地を計画的に整備しています。そのお弟子さんたちはカンサスシティ、ボストンなどの公園の配置をし、それをつなげて一つの公園システムをつくっている。道路はそれより早いのですけれど、建築屋が都心の整備をしたりして都市計画の仲間入りをするのはずっとあとの話です。

高見澤 はじめに公園ありき、ということでしょうか。それは人間の生活の基本的な自然の欲求として、緑とか広場とかを求める気持があるということでしょうか。

佐藤 それはありますね。

日笠 ただその前に、日本の場合と同じように、王侯貴族のお屋敷とか宮殿という要素もあります。近代国家になって、一般民衆の時代が来ても、各戸が大きな庭園をもつわけにはいかない。そこでそういうお屋敷や宮殿を

の声からです。

高見澤 産業革命によって都市労働者が増えたということですか。

佐藤 ええ。産業革命は大いに関係しています。思うに日本でも同じことで、明治中期ぐらいまでは、東京でもみんな一戸建て庭があった。そういうときは公園など必要を感じなかった。専門家が公園必要論をとなくても、近所には田んぼや畑、山や川や海があるじゃないかと、貧乏だったかもしれないけど、生活環境は悪くなかった。高見澤 都市計画という意味では、関東大震災が大きなエポックだったと思いますが、当時公園というものについてはどうなふうに考えられていたのでしょうか。

佐藤 あの時はいわゆる分人が死んで、避難地が沢山必要だという世論があつたことと、これを機会に首都東京を立派にしようという動きがありました。後藤新平が大計画を立てて、隅田川の両側をリバーサイド・パークにしようとか、色んな計画があつたのですが、結局比較的大きな公園が三つ、小公園を五六ヶ所ばらまいただけで終わりました。しかしこの小公園というのは画期的なこととて、発想としては避難場所ということだったけれども、子供の遊び場という意味もあつたわけですね。大体は小学校に隣接していましたからね。

使い方の問題と同時に

まだまだ足りない絶対量

高見澤 私が住んでおりますのは東京・杉並区の善福寺川のわきで、家のすぐ前が新しい公園なのですけれども、見ておりますと、いかに公園が付近の人たちに広く利用されているかがわかります。犬の散歩、ジョギング、お年寄

小石川後楽園 1629年徳川頼房によって築造された。大正12年に史跡・名称に指定され、昭和13年より一般公開された。

いま、
公園抜きに
都市は語れない

高見澤たか子
(生活評論家)

日笠 端
(東京大学名誉教授・東京理科大学教授)

佐藤 昌
(日本公園緑地協会会長)



の方々の朝の体操、お花見から盆踊りに至るまで。ところがときどき公園事務所のスピーカーで「芝生の中に入らないで下さい」とか「自転車の方は……」とかやってるのです。そうやって放送したりするのは、まだ公園の使い方がたなのかな、という気がするのですが。

日笠 その問題もあるけど、やっぱり公園が足りないのじゃないですか。だからみんなが集ってきて遊ぶから、管理する方がたまらなくなつて芝生に入るな、ということになってしまふ。過密なんですよ。大体日本の都市計画区域を平均しますと一人当りの公園面積が二・八㎡、六大都市ではさらに下回っています。そこで、都市公園法で、市内で六㎡、市街地で三㎡以上、さらに長期目標では一〇㎡ぐらいまで持つていこうという目標をたてているわけです。

ところが、アメリカの標準は四〇㎡、一〇倍以上です。イギリスでは二〇㎡、ニュータウンでは四〇㎡。西ドイツでも最近では三〇から四〇㎡ですから、大変なへだたりがあります。そこで老人のゲートボールと子供のキャッチボールがぶつかつたり、芝生でキャッチボールをしたりすると、管理する方は芝生に入るな、ということになりかねない。むろんマナーの問題もありますけどね。

佐藤 公德心の問題ですね。理想的に言えば、大きなスペースの公園があつて、百貨店みたいにそれぞれの要望をすべて満たせるようなものが一番いいのですが、現状では絶対的なスペースがないのですから、その要望をすべて入れると狭い所でくしゃくしゃになつてしまふ。

そうすると改善の策としては、あちこちに機能を分散して小さな公園をたくさんつくる以外にない。それには数をたくさんにしないでいい。いずれにしても絶対量が足りないという話になつてしまふのです。

しかしチャンスはまだある

大きいお母さん方の行動力

日笠 そこで、過密化した都市に公園がでるのかという点ですが、たとえば大きな工場が移転するとか、研究機関が筑波へ移るとかいうときにチャンスですね。佐藤 それから米軍の軍用地の返還とか。もしそれが国有地であればその跡を公園に、という声が上がっているだけでも、みんながねらっているから公園に残るのはごくわずかになつてしまひます（笑）。

高見澤 希望がないわけではないですね。しかし、日本の行政が縦割りになつていことが新しい公園を増やすネックになつていっていることはいまありませんか。

佐藤 ただ都市計画は建設省一本ですから、ここに公園が必要だということが決定すれば、あとの問題は予算でして（笑）。国の予算は毎年七〇〇億程度しかありません。日笠 公園計画だけではとても追いつきませんから、計画決定を待たなくてもチャンスがあればどんな作つて行く、ということが合せて必要じゃないでしょうか。最近はお母さん方の間に、環境をよくするとか、緑を守るとかいう意識が高まっています。たとえば企業が大きな運動場をもつていて、職員しか使わないという場合、役所からかけ合つてもうまくいかないけど、お母さん方が交渉に行かれると、会社の方でもそれは社員が使わないときはお貸ししましょう、というケースがあつたりね。

また地主さんが土地を売ってくればできるという場合でも、役所相手だと断わるけれどお母さん方が「お願い」と言うと地主さんも断り切れなかったり。公園でなくても、たとえば社寺の境内でも、とにかく公園の機能を持つていけるあらゆる空間を利用する姿勢でやつていかなければ、とても追いつかないという気がしますね。

高見澤 公園が欲しいと思つたら、私も黙つていてはだ

負担するのは当然である、というところまで行つてもいいのではないかと考えているのですが。

佐藤 公園をつくることも大切ですが、管理することも大切で、地元のボランティアの活動も重要で望ましいことです。公園の維持には費用がかかりますから、入園料をとることも考えていい。カリフォルニアの州営公園はほとんど全部お金を取っていますし、この間中国へ行つたら、おどろいたことにちゃんと入園料を取っている。

高見澤 ロンドンに会員制の小さな公園があるそうですね。

佐藤 あれば分譲地の公園で、その周辺の家を買った人だけがカギを持っていて利用するもので、一般の人は入れない。

いずれにせよ、日本でも都市生活にとって公園機能というものは不可欠のものになってきました。美観や環境の面でも公園は重要なものですが、美しいというよりは公園は思ったほど多くなく、一人当り一〇㎡ぐらいです。それでも都市としてどうしてよく見えるかという、要所所所に広場があつて、大きな施設の周辺に緑があるということ、公園機能を代替しているわけです。

高見澤 これからは高齢化社会の問題とか、コミュニティの問題とかいうことで、公園の機能はますます重要性をもつてくるわけですね。

佐藤 誰だつたか忘れましたが、昔、公園は都市の肺臓だと言った人がいました。酸素を補給するわけですから。その後、ベルギーのペシエルという教授が、公園は腎臓だ、なぜならそこで空気を浄化し、また人々の心をきれいにしてくれるからだといまして、今は腎臓というのが適当でしょう。

高見澤 まさに公園の機能をびつたりといひ当てた言葉ですね。では先生方、今日はほんとにありがとうございました。

公園は都市にとつて

肺臓というより腎臓

高見澤 私、子供のとき、公園を通つて学校に通つたのですが、今思ひますと、荒涼とした冬からだんだん春になつて、水鳥のヒナがかえつたとか、花が咲いたとかいうことが、いろんな意味で自分の情緒的な成長を助けていたと思います。今の子供は道路から道路へ、車をよけながら通学し、帰つて来てあそぶのはいわゆるチビッ子広場、というのでは、これからの子供たちはどうなつて行くのかという気がするのですが。

日笠 私は日本の都市計画法というのはここまで来たら改正すべきだと思うのです。道路も公園もなしに家を建ててさえるという国はどこにもないですよ。地区計画という制度もあることだし、それを義務づける時期だと思ひますね。たとえば山手線の中は結構一階家がひしめいていますが、これを四階建なり五階建にして、その代りオートプンスペースはきちんとつて公園にしましょう。そういう投資をしなくてはならないのじゃないでしょうか。地区の環境として、少なくとも道路と公園は整つてなければならぬ、ということ。札幌はそれをやつてい

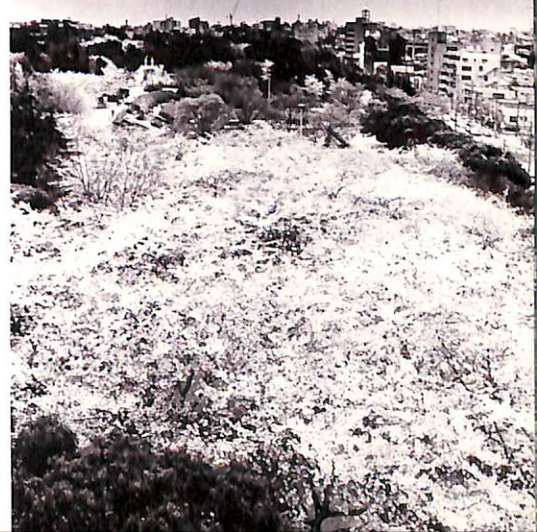
るわけですから話ではないと思ひます。それから小さい公園、近隣公園以下の小公園は地元が

飛鳥山公園

太政官布達によって作られた公園のひとつ。高さ15mのエレベーター付スカイラウンジ（無料）からは荒川方面が見渡せる。また春には400本の桜が咲きほこる。

昭和記念公園

天皇陛下御在位50年記念事業の一環として、立川基地跡地に建設されたもの。昨年第1期約70haが開園した。



都市公園面積の東西比較（建設省資料ほか）

都市名	年	人口	公園面積	1人当り面積
東京(区部)	1982	829万人	1,663ha	2.0㎡
大阪	1982	263	652	2.5
横浜	1982	276	549	2.0
名古屋	1982	208	909	4.4
神戸	1982	138	907	6.6
札幌	1982	144	751	5.2
アテネ	1976	254	286	1.1
ニューヨーク	1977	778	15,000	19.2
ワシントン	1976	76	3,458	45.7
東ベルリン	1979	109	1,800	16.3
西ベルリン	1976	210	5,483	26.1
ハンブルグ	1973	177	5,127	28.9
フランクフルト	1976	65	847	13.1
ボン	1973	28	752	26.9
カールスルーエ	1968	26	346	13.3
パリ	1973	261	2,183	8.4
ウィーン	1976	162	1,188	7.4
ローマ	1973	280	3,186	11.4
チューリッヒ	1969	44	356	8.2
ベルン	1976	15	63	4.3

都市公園の種類

種別	内容	施設距離(m)	標準面積(ha)
児童公園	主として児童の利用	250	0.25
市民公園	主として近隣に居住する者の利用	500	2
地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用		
都市公園	また都市計画区域外の地域の生活環境の向上を図ることを目的とする特定地区公園がある		4
総合公園	都市住民全般的の休息・観賞・散歩・運動・遊戯などの総合的な利用		10~50
運動公園	主として都市住民全般的の運動に利用		15~75
風致公園	主として風致を享受することを目的とする		
動物園・植物園	動物園・植物園などの特殊な利用		
歴史公園	史跡・名勝・天然記念物などの文化財を広く一般に役立てることを目的とする		
その他	その面積の1/3以上を園地などとして利用		
交通公園	市街地の交通渋滞および交通環境を改善することを目的とする交通公園など		
広域公園	主として市町村の区域を超える広域のレクリエーションのニーズを充足することを目的とする		50以上
大規模公園	大都市その他の都市圏域から発生する多種多様なレクリエーション・ニーズを充足することを目的とする	都市圏域から容易に到達可能な場合	全面積1,000
緑地	大気汚染・騒音・振動・悪臭などの公害の防止・緩和、災害の防止を図ることを目的とする		0.1以上
都市緑地	主として都市の自然的環境の保全および改善、また都市景観の向上を図ることを目的とする		道路幅10~20m
緑地	災害時における避難路の確保、市街地における都市生活の安全性および快適性の確保などを図ることを目的とする		
国の設置に係る都市公園	都府県の区域を超えるような広域的な利用に役立てることを目的として、国が設置する大規模な公園		300以上

上野公園

4/8 (日) PM4:00

上野へゴキウゴキウして遊ぶよ。
だから、せめていい空気を吸いに。
毎日、ここに来るんです。
隣に住んでますから。
動物園でパンダやペンギンを見たり。
しおの池でカモや
お魚と遊んだりします。
芝生に寝ころびたり
するの、
楽しいですよ。

お母さん

2歳の男の子

砧ファミリーパーク

4/9 (月) AM10:00

去年4人を組みまして
週に2回、月曜と金曜に
練習に来るんです。
人数は大体12人位。
もちろん、今年も冬は
寒かったからか、
2月、3月は休ませようけど……
春と秋がシーズンです。
年齢は60〜80歳。
平均年齢は72歳位ですね。

メンバーは二軒の
老人会(同本寿会)に
入っている人で、
お弁当持参が多いけど、
女は後援さんばかりです。

のんびりとね、
お弁当持ってきて一日中
やっています。
でもチームミスが多いですが、
本大会ではなかなか勝てないです。

砧緑地(砧ファミリーパーク)

■ 砧村・昭和15年防空緑地として誕生・食糧増産に協力・昭和21年砧苗圃・昭和30年砧ゴルフ場・昭和41年砧ファミリーパーク

■ 広さ：約31ha
■ 設計：都公園緑地部
■ タイプ：東京周辺部に計画された防空大緑地

上野公園

■ 江戸初期寛永寺創建・明治6年大政官制定公園・明治9年上野公園開園・明治15年博物館、動物園開設・大正13年東京市へ御下賜

■ 広さ：約55ha
■ 設計：なし
■ タイプ：東京で一番古く歴史のある大公園

井の頭公園 4/8 (日) PM2:50

おばあさん

西荻に住んでいるので、雨の日でも、お弁当を持って降りなければ、毎日のように来ますよ。

ネコは散歩が目的
だったんだけど、今は
おらねにエサをやり
に来るのが
習慣なのね。

(おじいさんの方は
三軒に住んでいて
2人はここよく
会う顔見知り
だそうよ。)

おらねはけいこういはいい。
3匹位、おいになつています。
ええ、おはんの残りの物、しょうまいとか、
かおのたまをいそいそと食べて
好きみたいよ。
毎日のように見えるから
かわいくてねー。

井の頭公園

■ 江戸幕府御用の茅刈場、神田上水の源・明治22年皇室御料地・明治34年東京市養育院井之頭学校設置・大正2年御料地御下賜・大正6年井之頭恩賜公園開園

■ 広さ：約30ha
■ 設計：井下清
■ タイプ：郊外公園計画による日本で最初の御下賜公園地

東京公園生活

新宿御苑 4/9 (月) PM 3:00

以前、同じ会社にいた知り合った4人組です。年に1度お花見をかねて集まることになっています。でも今日、お天気が悪くてねー、寒いし……せーかくワインもハロもデカも持ってきたのに、花も咲いてないし、つまらないわー。こーんな都会の真ん中、AM9:00～PM4:00まで、いられるんだし、絶対中々と思っ。作業は1時間半位で、来るとはけどもー。



平均年齢は24～25歳。
今度はずいぶん靖国神社でピクニックしたいです。

年に一度お花見をかねて、集まることになっています。

日比谷公園 4/9 (月) PM 12:30

2人とも近くの銀行に勤めるの。お昼休みは1時間位休むけれど、よく来る方らしい。本当はちよとまうかたんだ。あんまりお天気がいいから誘い合って抜け出してきちゃった。



代々木公園 4/9 (月) PM 2:00

24歳。駒沢大学の学生です。近くに住んでいるから、月に5～6回位はこーで、野球のキャッチもしています。それと大学で「フリーズ」というチームを作っているの。隣のグラウンドがあれ、よく使っています。

野球は大好きだから、授業をさぼることも。やっちゃんだよ。

あんまりお天気がいいから誘い合って抜け出してきちゃった。

新宿御苑

- 江戸時代内藤新宿四谷荘→明治5年内藤新宿試験場→明治12年新宿植物御苑(宮中の御料栽培)→明治39年新宿御苑(宮庭園)→昭和24年国民公園新宿御苑
- 広さ: 約58ha
- 設計: アンリー・マルチネー、福羽逸人
- タイプ: 皇室の御園が一般公開された日本唯一の大庭園

代々木公園

- 代々木の原→明治42年陸軍代々木練兵場・昭和22年米軍宿舎(ワシントン・ハイツ)→昭和39年オリンピック選手村・昭和46年代々木公園開園
- 広さ: 約54ha
- 設計: 設計競技案+都公園緑地部
- タイプ: 戦後の都市計画による東京都唯一の森林公園

日比谷公園

- 日比谷の入江→徳川時代埋立、大名邸地→明治初期日比谷練兵場→明治36年日比谷公園開園
- 広さ: 約16ha
- 設計: 本多静六
- タイプ: 都市計画で更地の上に造られた日本最初の近代的大公園

私は毎週土曜日に神保町へ行っています。雑居ビルの三階に美学校というのがある、私は講師をしているのです。夕方六時半から。

いままで私は中央線の吉祥寺とか国分寺方向に住んでいた、美学校へ行くときはいつも中央線のお茶の水駅で降りて、そこから神保町に向って歩いていました。お茶の水の、聖橋^{ひじり}ではない方の橋のある改札口を出ると、駅の前に交番があります。もう十年以上も前、神田カルチエラタンとかいう造反祭のときに火をつけて燃やされた交番です。いまはまた建て直されて、ふつうに営業しております。

その向い側の道をはいて行くと、左側に喫茶店の、「ジロー」があります。原稿を渡したりするときはここで編集者と待ち合わせたりします。

前はその道をまっすぐ行って左に曲がった崖の先端から、すべり台みたいになりて降っている男坂の石段を下って行ったのですが、最近はずっと手前から左に曲がります。山小屋風の喫茶店のレモンがあったりしますが、このあたり最近はいろいろと予備校が多い。日本の教育制度のお陰で予備校は大変に儲かっているみたいです。

でそのあたりをいろいろ曲がって行くと、道は下り坂になりながら、山の上ホテルの横を通ってなおも下って行きます。仕事のことはこのロビーで待ち合わせをすることもあり、あるいは食事をしながら対談をすることもあります。以前文学の賞をもらったときには緊急事態で忙しくなり、このホテルでカンヅメになりました。机やドアなどがつりしていて、建物全体はわりと小じんまりした感じで、私の好きなホテルです。

でその横を下り坂になって進んで行くと、小さな公園

に出ます。私はこの公園の中を横切って行きます。雑木林のてこぼこの石段をさらに降りて行くと、やっと坂が終って平地になります。この時間、近所の子供たちがボールとか何かで遊んでいます。遠くのベンチにはたまに若いカップルが貼りついていたりします。もう夕闇が忍び寄っているのです。

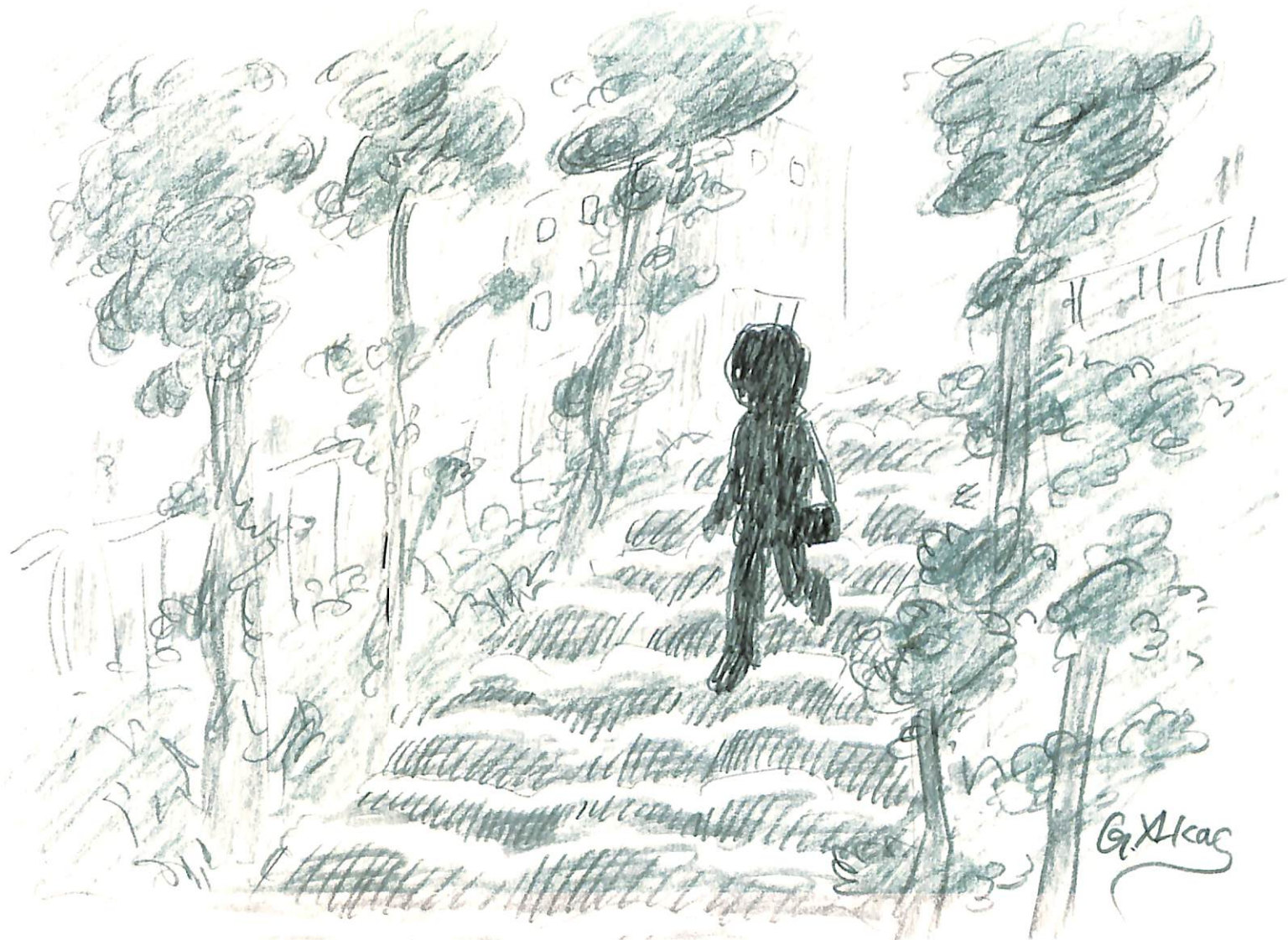
で公園を出ると夏目漱石がいたという錦華小学校があります。その横を通って行くとだんだん神田の町になってきて、さて夕食はどうしようかと考えはじめます。お腹の状態によってはしっかりと何かご飯ものを食べるのですが、そうでもないときにはラーメンです。その通り道の左側に小さなラーメン屋の「伊峡」があります。カウンターだけの店ですが、わりと私の好きな味です。それに安い。おいしくても高ければ感激も薄まるが、安いときには感激もひとしおです。

で伊峡のラーメンを食べたときには最後におひやをグーッと呑みほして、満ち足りた気持ちで白山通りへ向かいます。そこから美学校へは白山通りを途中で横断するのがいちばんいい。で信号の具合で車が徐行したり止ったりしているときには、思い切って交通違反をしながらその間を縫って渡ってしまいます。だけどそれがムリなきには、

「やはり歩行者はちゃんと正しく横断歩道を渡るもんだよ」

という顔をして、ゆっくりと信号のある交差点へ向い

尾辻克彦



illustration/赤瀬川原平

ます。

そうやってとにかく白山通りを渡り、村田簿記のビルの横を通ったりして行くとやっと第二富士ビルの前に出る。美学校のあるビルです。もうこの時間、しかも土曜日のせい、いつも清掃会社の人が来てモップで階段の掃除をしています。掃除をしてもあまり効果の上がらないような古いビルです。でもいちおうちゃんとやっているところがいい。

そのモップを避けながら三階に上がると美学校です。まず事務局にはいつソファに鞆^{かま}をポイと置きます。ソファはあちこち擦り切れて、内容物が飛び出しています。それをガムテープを貼って防いだりしています。そこに腰を降ろして、

「やれやれ」

と吐息をつくと、事務局長の今泉さんがニヤツと笑って、一升ビンを持ち上げて、焼酎を茶碗にトクトクトクと注いでくれます。千代田区神田神保町というのは、私にはそういう町です。(おつじ・かつひこ 芥川賞作家)

夕闇迫る神保町

風土と造園様式

中庭式庭園

庭園や公園の成り立ちを考える場合、どうしても無視できない点に風土の問題があります。風土という言葉は様々な場面で使用されているので、その定義はむづかしいのですが、いっぽう地理的位置、地形、地質、風、気温、雨、湿度、地震などの自然的要因と、歴史、社会、生活、宗教、科学、芸術などの人文的要因がからみあって構成しているものといつてよいでしょう。

さて、ヨーロッパは俗に石の文化とか、森の文化とか、

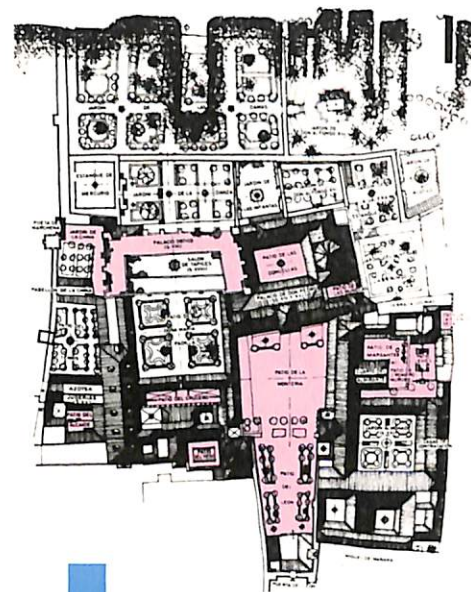
中庭式庭園です。建築物によって囲まれたパティオという空間は、暑い夏になると日陰をつくるぜつこうの場所になります。スペイン人にとって夏の庭は、日陰を楽しむ場であったのです。パティオが概してどれも小じんまりしているのは、大きくすることで暑さの面をかえって不利になることを防いでいるからに他なりません。

パティオにはしばしば噴水が設けられたものや、壁面を花鉢で飾ったものがあります。これは気候風土といった外部条件から必然的に発生したパティオが、そこで暮らしている人々の生活様式に影響を与え、パティオが生活の中心の場になっていったことを物語っています。

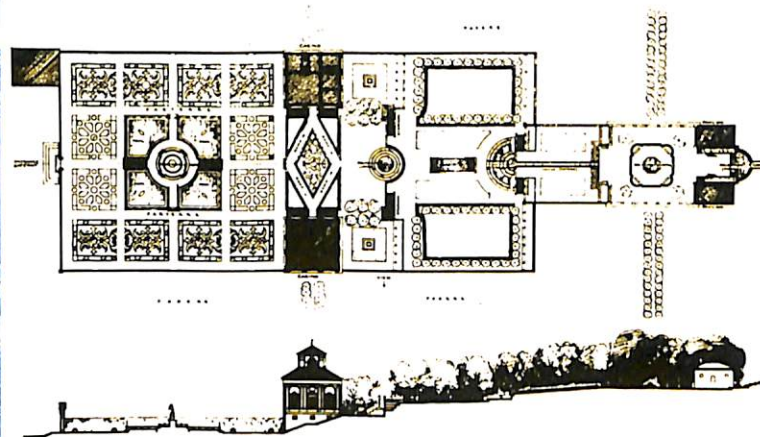
西アジアのイスラム地域でも、少し規模の大きなパティオを見ることができます。オレンジの木が植えられたり、噴水がつくられたりして、住宅の中庭とはまた違った公共の場としての役割ももっています。カリフ（僧侶）の説教などが開かれる場所も、こうしたパティオの中です。

イタリア式庭園

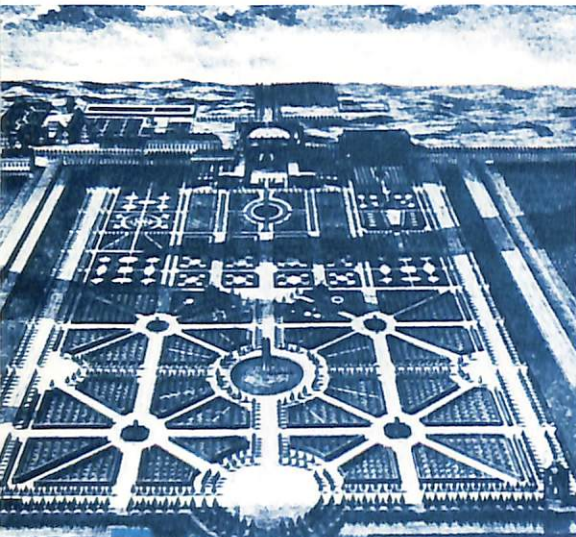
同じ地中海沿岸でもイタリアは、もう少し気候条件がよくなります。庭園もスペインと比較するとはるかに大きなものがつくられるようになり、公園の様々な要素となるようなスタイルがつくられます。年代的に見ると一五、六世紀で、イタリア・ルネサンス期にあたります。スペインよりも雨量が多くなるので、植生がよくなり植え込みや背の高い生け垣をつくって建築的な空間に仕上げられていきます。しかし、なによりも大きな特徴は広い地形を利用して、立体的に構成されたテラス建築式の庭園が生まれたことです。傾斜面の起伏を切り土したり、また土を盛ったりしながら、平らな広い面を幾層もつくり出し、そうしてできたテラスに花壇や彫像を配置



パティオ (スペイン・セビリアのアルカサル
『西洋造園変遷史』針ヶ谷鍾吉誠文堂新光社)



イタリア式庭園(ランテ荘)



フランス式幾何学庭園(ヘレンハウゼン)

いわれています。庭園や公園もそうしたヨーロッパの文化の中ではぐくまれてきたのですが、こうしたいわゆるヨーロッパ的なイメージと異なるのが地中海沿岸のスペインに代表されるイスラムの国々で、北アフリカや西アジアから中国の一部まで続く乾燥した気候条件のもとにあります。地中海に面してはいるものの、植生を貧弱なものにしていて、砂漠地帯の中で植物が一面に群生するように、都市もオアシス的に一カ所にあつまっています。

そうした風土から生まれたのが、パティオという

し、ひとつの独立した空間をつなぎあわせてゆく。しかも水をうまく利用して、噴水ばかりでなく、滝やカナールという細い直線状の流れを随所につくることで、非常に変化に富んだ空間が生まれたわけです。その結果、高い場所から遠景を眺め庭園を見下ろすという新しい楽しみ方が生まれてきました。

ところで、この広い空間は、人工的なものです。歴史的に見るとルネサンス期まで、地中海地域では諸国の興亡盛衰がずっと長く続いてきましたから、自然そのものがかなり荒廃してしまいました。そのために、カナールを引いて灌漑用水を流し、植物を育成させる農園が生まれましたが、その景観が庭園に取り入れられたのではないのでしょうか。そのあたりは、農耕生活によって、自然に従っていくことから文化が発生した日本とは大きく異なっていますね。

フランス式庭園

フランスの庭園は、当初イタリアの影響が大きかったのですが、地形や植物があわないということもあって、しだいにフランスに適したものがつくられるようになりました。そこに登場するのが、ル・ノートルという天才で、彼はイタリアなどと較べるとずっと平坦な地形を積極的に生かして、いわゆる平面幾何学式庭園という様式を確立したわけです。

緯度が高くなると、日照時間も短くなり、気候的には雨量が多くなり、気温も低くなってきましたから、スペインの庭園が太陽からの逃避であったのとは反対に、積極的に光を求めるような構造になってきます。平らな土地に広がった大庭園には、陽の光の反映である草花がみごとに咲きはこり、公園を訪れる人間の眼を大いに楽しませてくれます。また、庭に寄りそって建てられた建築

物のバルコニーから庭園を俯瞰すること、もうひとつの楽しみでもあったことは、庭園を構成する数々の幾何学的花壇や噴水などから知ることができます。

イギリス式庭園

イギリスに眼を移すと、こうした俯瞰による観賞ということは、さほど重要ではなくなってきた。むしろ、自然風の庭園を散策するというように変わってきました。当時（二八世紀）のイギリスでは、自然主義的な風潮が高まっていたから、自然の地形による起伏や植生に近い状態に作るというスタイルとなってあらわれたのです。

フランス式では、どちらかというと森の中に装飾的な庭園が人工的につくられたわけですが、イギリスの場合は、広大な芝生地に樹木を点在させるような形で、みづから牧歌的で解放的なよそおいをもっています。建築の取り入れ方においても、フランス式は建物から広大な庭をながめるために建築物を中心にして造園されましたが、イギリスでは逆に、建築物が風景のひとつの要素になっている。自然の風景の中に、神殿やパビリオンや水車小屋が点在しているわけです。

こうした自然賛美の庭園は、それまでのバロック的、ロココ的装飾主義の反映によるフランス庭園への反抗でもあったと思われます。

現代の公園

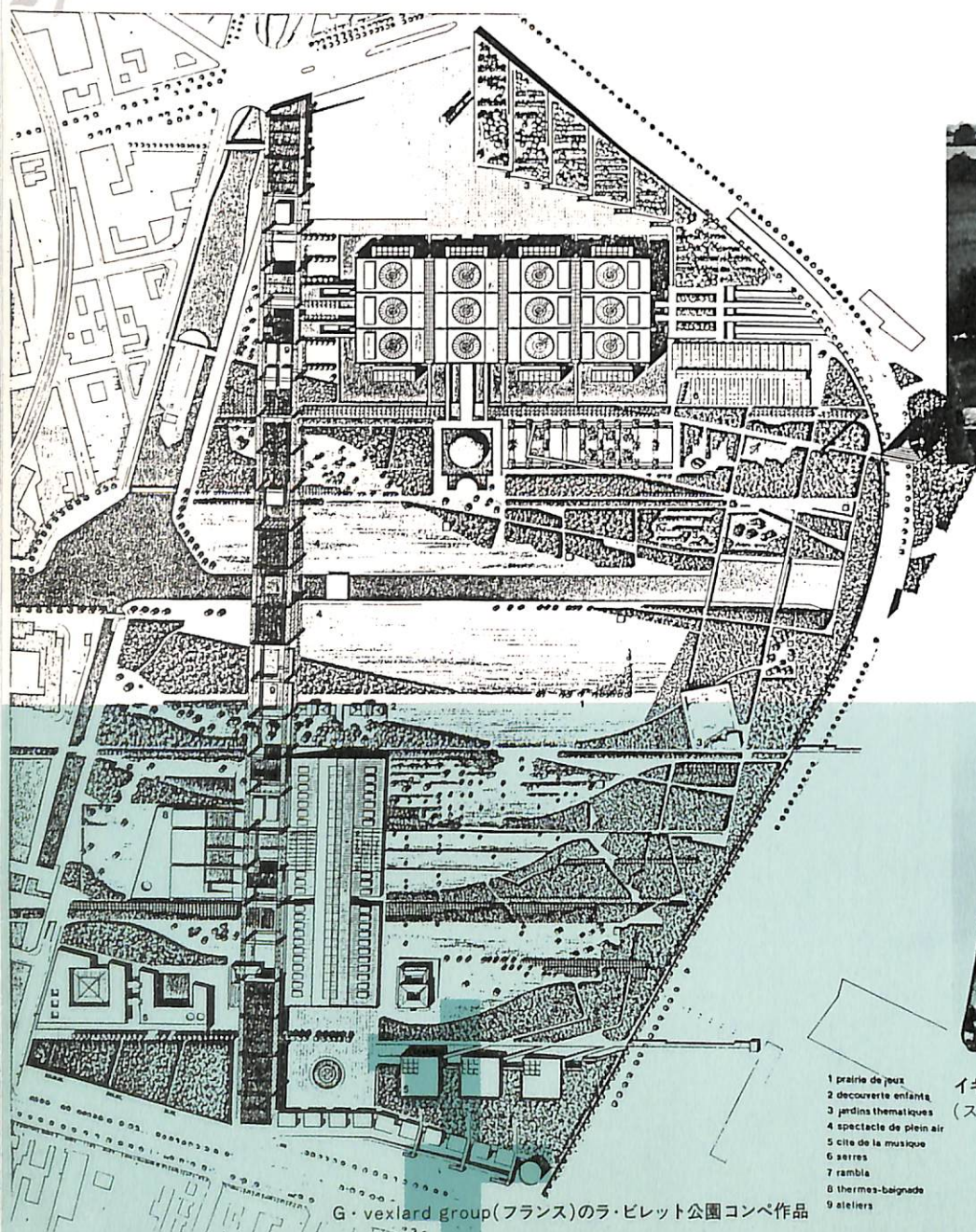
ドイツやスウェーデンの庭園は、イギリス式とフランス式とを組み合わせたスタイルです。平面幾何学式庭園と風景式庭園が組み合わさってできているものが多いのですが、実は現代の都市公園は、こうした庭園から非常に大きな影響を受けています。その代表格はなんといってもニューヨークのセントラル・パークです。全体的には自然風の曲線的な形態をとりながらも、部分的には幾何学的な直線の形態をうまくとり入れています。

日本の場合は、寺院や大名の庭園などは、宗教思想的色彩が強く、象徴的な意味を持った独特な空間になっていますが、明治以後にできた大きな都市公園の多くは洋風庭園の中に和風庭園が同居したスタイルといえます。

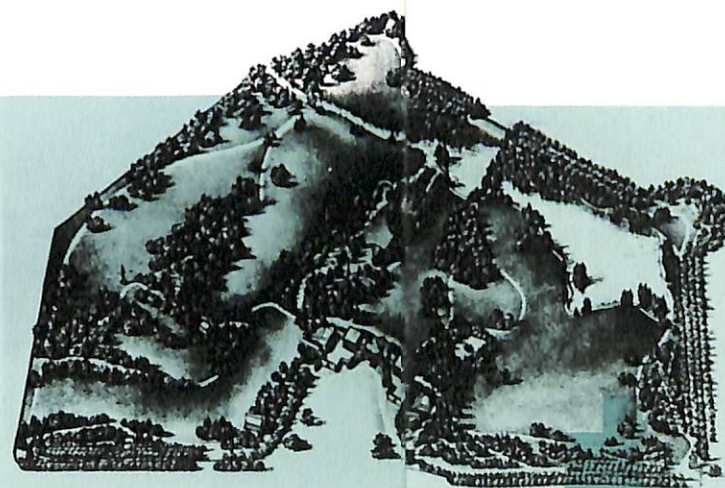
ところで、イタリアにはじまる大規模な庭園を設計していたのは誰かというと、専門家ではないのです。といっても、ルネサンス期の頃は、万能型が多かったですから、なんでもこなしたのでしょうか、とにかく造園家という者が出現したのはずっと最近のことです。ですから実際に庭園をつくったのは、画家や彫刻家、建築家であつたわけです。そういう角度から見ると、フランスの平面的な構成や、幾何学的な花壇の模様などは、キャンパスに描くように画家がつくったのではないかと想像できますし、また、立体的な要素を多くもった庭園は、建築家や彫刻家の手になる場合が多いといえます。いずれにしても、現代から見れば、それぞれの分野の特長があらわれていて面白いですね。

さて、現代の都市公園は、組み合わせ型だと言いましたが、昨年フランスで行なわれた二二世紀的発想を求めたラ・ビレット公園のコンペ（競技）を見ると、さらにそれは強く出ているように思います。一時期都市公園にも自然賛美がいわれましたが、それははや過去のものであつて、今はむしろ、自然をとり入れながらも、現代の都市の要素が結合されてきたあがったバイタリテイのあるものが求められているようです。今後さらにそうした傾向は強くなっていくだろうと思います。（談）

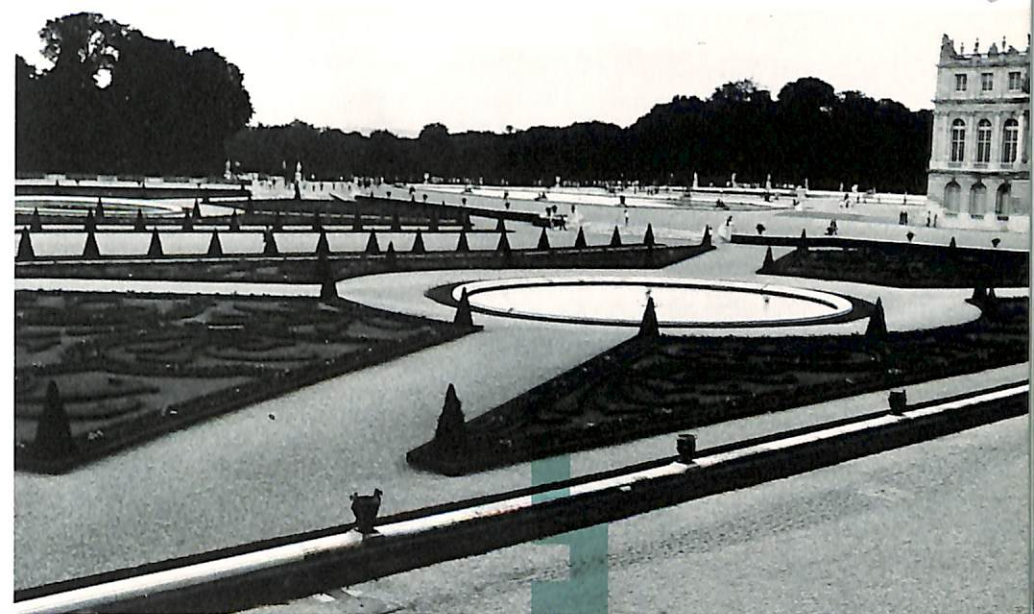
すずき・まさみち（造園家）



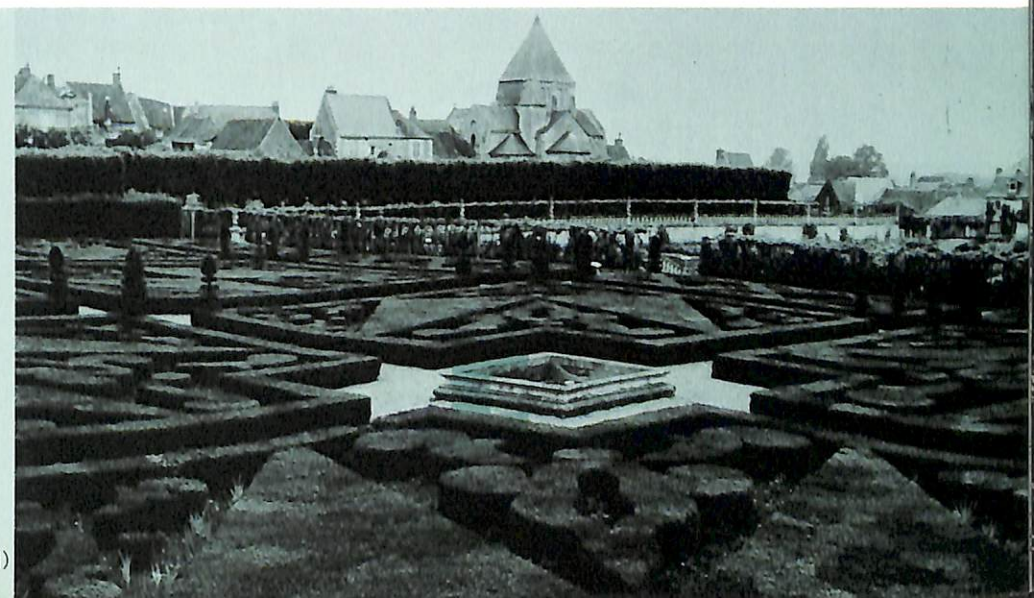
イングランドの風景



イギリス風景庭園
(ストウ園)



ヴェルサイユ宮殿(フランス)



幾何学的花壇(フランス・ヒランドリー城庭園)

造園の 博物誌

鈴木博之（東京大学助教授）

エデンの園
ベルシャザルの宴の庭
バビロンの空中庭園
ハドリアヌス帝のヴィラ
アルハンブラ宮
ヴェルサイユ宮
ブレニム宮
迷路
パルテール

テラス
ルードンの庭
クレセント
ブローニュの森
キュー・ガーデン
セントラル・パーク
石庭
無隣庵

エデンの園

ヘブライ語で歓喜を意味するというエ

デンは、旧約聖書に描かれる楽園である。ここに暮らした人間の祖先アダムとイブは、悩みも死もない生活を送っていた。その楽園が失なわれるのは、彼らが禁断の木の実を食べたためであった。楽園を

う作業の裏には、つねに失なわれた世界を創造しなおそうとする気持ちが働くのであり、そこにはエデンの園の影がほの見えるのである。

●ペリー公の折檻書に描かれた中世的表現によるエデンの園



追放された人間はつぎつぎに子孫をふやしながらも、失なわれた楽園であるエデンを快復したいとねがう。エデンの園こそは失なわれた黄金時代の世界だと考えられるのである。エデンの園は黄金時代における世界そのものである。造園とい

ベルシャザルの宴の庭

旧約聖書が語る空間には壮大なものが多。ソロモンの神殿、バベルの塔、そ



●ベルシャザルの宴の庭

してバビロンの栄華である。バビロニアの摂政ベルシャザルはエルサレムの神殿から金銀の器を持出し、大宴会を開く。その箸がもととなってバビロンは滅亡してゆくのであるが、ベルシャザルの宴は神をも恐れぬ所業のひとつとして長く語りつがれた。一九世紀の画家ジョン・マーティンが描いたこの場面は、古代の空間の壮麗さを伝えて名高い。ペルシア

風の列柱のならば宮殿の中庭いっばいに人々が宴をくりひろげる。中庭という庭園形式の極限がここには窺われるようである。

バビロンの空中庭園

ギリシアの数学者フィロンの選んだ世界の七不思議のひとつに「バビロンの空中庭園」がある。これはネブカドネザル二世が作り上げたものといわれるが、実際には庭園が空中に浮くはずはなく、一種の屋上庭園であつたと考えられている。しかし、降水量の少ないこの土地に屋上庭園を作るのは容易ではなく、階段状に

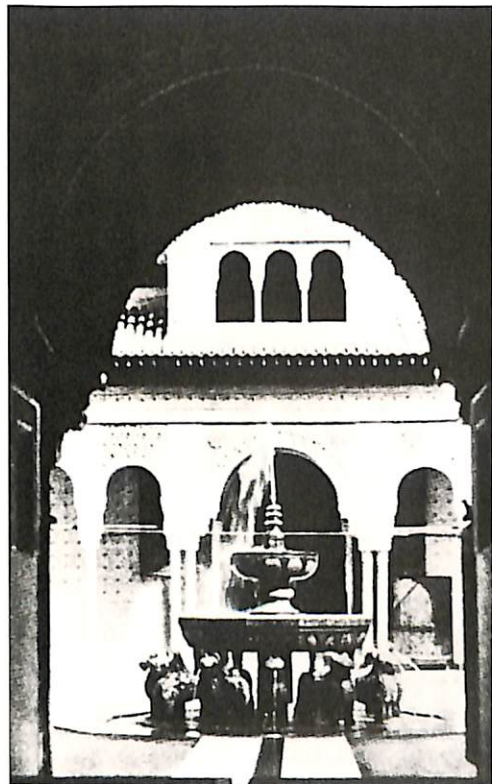


●コーフラテス河畔で相ついで発見された遺跡を参考に20世紀初頭に描かれた復原図

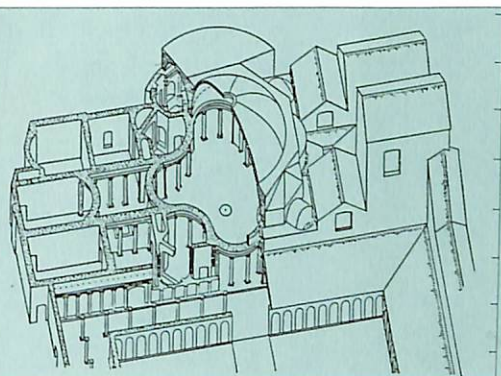
作つたテラスに土を盛り、そのテラスの最上段に貯水タンクを設けて水分を供給したといわれる。テラス部分はタールを用いて防水されていた。われわれの庭園に対する夢のひとつ、「庭を空中高く持ち上げて楽しみたい」という欲望がここに満たされたのである。

ハドリアヌス帝のヴィラ

ローマの五賢帝のひとつハドリアヌス帝は、皇帝として帝国各地を旅行した。その当時のローマ帝国北辺の護りとして築かれた城壁は、いまもなおハドリアヌスの長城という名でスコットランドに残っている。その彼が晩年に営んだ別荘がローマ近郊のティボリに残るハドリアヌス帝のヴィラである。ここに彼は自らの生涯の思い出の土地のイメージを集めた、ギリシアやエジプトの地名がつけられた別荘の各部分は、全体として世界の縮図をなしていたのである。これこそ、まこ



●獅子の中庭(スクアード) (『西洋庭園変遷史』針ヶ谷鍾吉誠文堂新光社)



●ハドリアヌス帝のヴィラ黄金広場(ピアッツァ・ドーロ)の部分の建物復原図

アルハンブラ宮

と帝王の名にふさわしい営みであつた。

庭園なのではない。ブレニム宮はチャール家の館で、第二次大戦時の首相チャーチルも幼時をこつて過した。

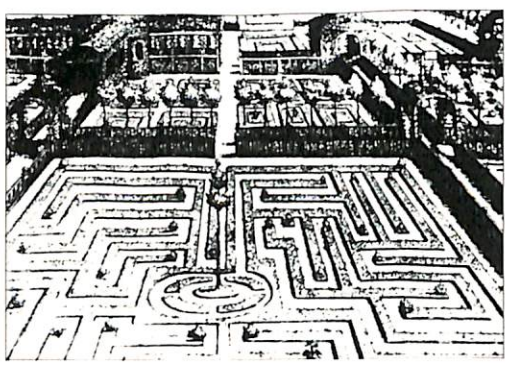


●ブレニム宮

迷路

庭園に迷路を作ることは古くから行なわれていた。それが盛んになったのはルネサンス以降一八世紀頃までである。刈込みで迷路を作り、そこを歩いて楽しむ。同時にこの迷路は至高にいたる人生の道徳的な歩みの象徴ともされた。刈込みの高さは腰までくらいのもから、大人も隠れてしまうものまで様々ある。大がかりな迷路を歩いてみると本当に道に迷ってしまうこともあり、冷汗をかく。迷路

の中央部、すごろくといえは上りにある位置に木が植えられることが多いが、ここにたどり着くとはつとする。迷路は英語ではメイズという。迷宮はラビリンスというが、迷路はこれに比べると平面的で、多少の明るさがあるように思われる。敷石の色違いで迷路を描くこともあり、これはゴシックの大聖堂の床などにしばしば見られる。歩行者通路に迷路を描く試みなど、現代でも楽しめるのではなからうか。



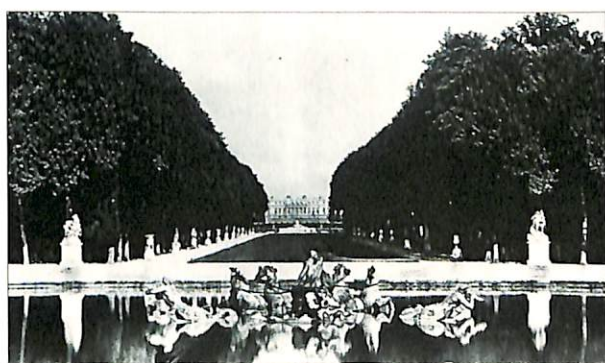
●刈込みでつくられた迷路

パルテール

洋風庭園を彩るさまざまなパターンの花壇と苑路の組合わせを、パルテールという。パルテールのパターンは幾何学的

イスラム園の庭園の美しさは水を取り入れた中庭に極まるとしばしばいわれる。閉じた空間のなかに動きと涼味をもたらす水が導びかれるとき、ひとつの別世界が完成する。スペインのアルハンブラ宮殿は、ヨーロッパの中に侵入したイスラム文化が遺した美しいモニュメントである。変化に富んだ部屋と中庭のつらなりは、小空間のなかにひとつひとつ異なった世界を封じ込めるイスラムの技法の秘密を心ゆくまで味わわせてくれる。

ヴェルサイユ宮



●「アポロの池」と「緑のジュタン」 (『西洋庭園変遷史』針ヶ谷鍾吉誠文堂新光社)

フランスの絶対王制の栄華を誇つたル

なもののや曲線的なものなど多種多様であるが、いずれもレースの模様やビスケットや、あるいはゴシック末期の教会の天井パターンと一種共通したところをもつ。これがすなわち西欧の美意識の表われかと納得されるのである。庭園の木をすべて幾何学的形態に刈込んだりすることがあるのも、同じ美意識によるのであろう。



●アネの城館につくられたパルテール

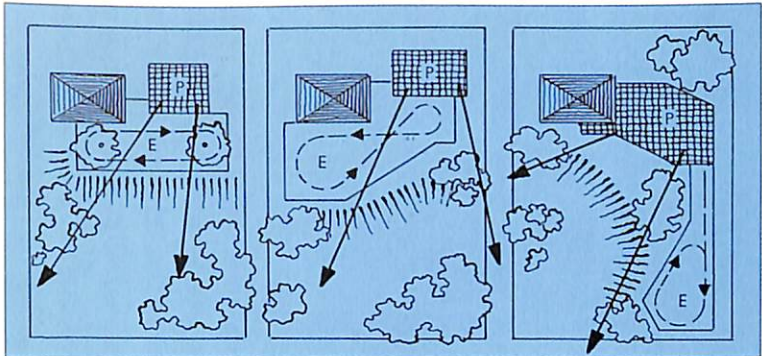
テラス

建物の南側に張出したテラスは、庭園

ブレニム宮

イギリス風景式庭園の代表作として知られるオックスフォード近郊のブレニム宮の大庭園は、ランズロット・ケイ・パビリティ・ブラウン(一七六一―一七八三)の作庭によるものである。一見自然そのもののような樹木や池のたなずまいは、実は注意深く土を盛り、木を整理して植え直し、池を掘つたものなのである。自然を整え、そこから醜くさを除去するのが風景式庭園であつて、決して放置した

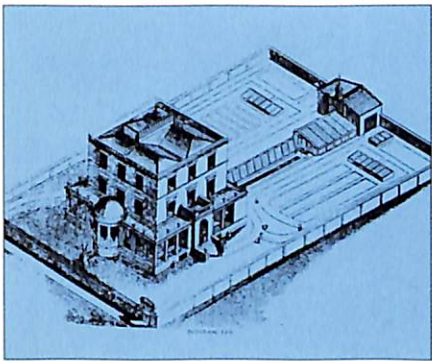
の道具立てとしてポピュラーなものである。しかしこのテラスを巡っては、一八世紀にひとつの論争があった。テラスは建物の人工性と庭園の自然とを対比する道具だから良いという説と、テラスは庭と建物を切ってしまうからよくないとする説である。結局テラスの快適さに軍配が上って、これは定石手法として定着した。だが、テラスの良さを味わうには眼前に広々とした庭がないといけないのが欠点である。



●テラス(P)は遊び庭(E)にじゃまされずに眺望が楽しめることが望ましい。

ルードンの庭

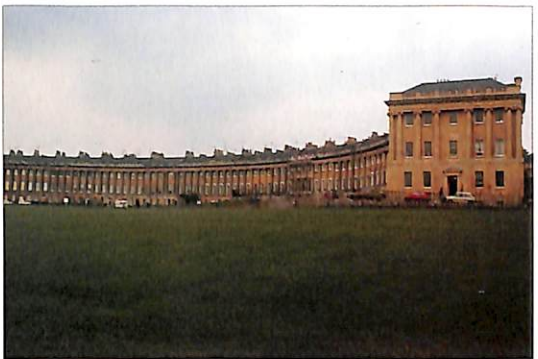
ジョン・クロード・デ・アス・ルードン(一七八三―一八四三)はイギリスの郊外住宅のタイプである。二戸連続住宅の原型を提示した造園家である。彼は温室を前庭に備え、裏庭には菜園をもつ二戸連続住宅を自邸としてロンドンに建設した。造園書を数多く著わしたルードンは、庭に於いて都市住居に至るヴィジョンを提出したといえるであろう。建物が堅固な右やレンガで作られる西欧都市にあっては、庭園は極めて重要な役割りをもつのである。



●手前の丸い屋根のある部分が温室

クレセント

三日月形にわん曲した建物と、それが

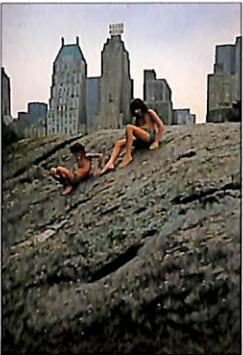


●クレセント

作り出す道路と広場をクレセントと呼ぶ。この形式の広場はイギリスの温泉町バースに、一八世紀にはじめて作られた。景観に変化を生み、しかも機械的でない構成が得られるところから、クレセントは多くの都市で応用されることになった。都市の住宅が街路に沿って連続して建てられる欧米の都市では、道路のカーヴが印象的なスカイラインとなるのでこのような手法は極めて効果的である。

ブローニウの森

パリの西郊にひろがる大森林公園がブローニウの森である。もともとあったルブレの森とよばれる森林の一部を公園



●現代のセントラル・パーク

石庭

石庭といわれるものは、禪宗寺院の枯山水による方丈庭園のことである。石を山に見立て、砂を水の流れや海に見立てる枯山水の手法は、日本庭園を支配した象徴主義的作庭法の結実である。無機物を用いるがゆえに永遠性を帯びた庭を長く保つことができ、宏大な宇宙を封ずる



●亀安寺の石庭

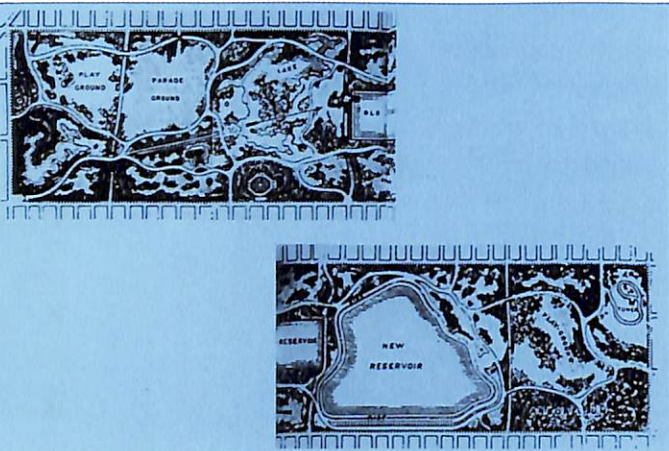
こともできたのである。おどろくほどの

キュー・ガーデン

ロンドン近郊のリッチモンドにあるキュー・ガーデンは王室の植物園として発達した。イギリスが世界に版図を拡げるとともに、世界の植民地からさまざまな種類の樹木がロンドンにもたらされた。熱帯地方の樹木を栽培するには温室がいる。一九世紀に発達する鉄とガラスの構造物は、まずこうした植物園の温室から生まれたのであった。今では、一般公開されているこのキュー・ガーデンでは、四季おりおりの草花と世界中の樹木を楽しむながら散策することができる。



●キュー・ガーデン



●セントラルパーク地図

無隣庵

近代性をすでに室町時代に確立していたことをわれわれは誇りにしてよいし、それをもっと学ぶことに心すべきであろう。明治の元勳山県有朋が京都に営んだ別荘である無隣庵は、近代的な和風庭園の先駆として知られる。山県有朋は作庭を終生の趣味とした人物で、芝生を庭園にとり入れ、低く刈込んだつづじをそこに配した。実際の造園をしたのは明治から昭和初年にかけての名人といわれた小川治兵衛である。伝統ばかりが支配すると思われがちな和風庭園にも、広い園遊会を催せる芝庭がもち込まれ、近代的な手法が徐々に入ってゆくのである。



●無隣庵の芝庭

セントラル・パーク

ニューヨークを代表する都市内大公園

広い雪国・狭い南国

住宅規模の地方性



- 広い県 1.富山 2.石川 3.新潟 4.秋田 5.岩手
- 狭い県 1.鹿児島 2.沖縄 3.宮崎 4.高知 5.東京
- 多雪地では、冬期に家事・収納・貯蔵などのために広い生活空間が要求されます。また3世代・4世代同居の大家族世帯率も高い(最大は秋田で全世帯中の43%)。
 - 南西地方は、雪国に比べ貯蔵などの屋内生活空間が少なくてすみます。小家族世帯が多く、大家族世帯率も大都市なみに低い(鹿児島13%)。
 - 大都市の東京・大阪は、若年勤労者の集中による核家族化など小家族世帯の増加、住宅用地不足、その他の都市化要因により、小規模グループに入っています(大阪は狭い県の6位)。
 - この地方による違いは、過去30年変化がなく民力度とは相関しません。東日本の一子相続制・親族共同体志向、西日本の分割相続制・村落共同体志向など、気候・文化・習俗の複合したちがいが要因となっているのでしょうか？

(昭和59年3月当協会刊「住宅統計にみる住宅規模の地方性」より一部抜粋)

▲第一住宅建設協会の経歴▲

昭和三〇年、第一生命保険相互会社の基金をもとに設立された財団法人であります。設立以来公益法人の理念にもとずき低廉質住宅の供給と住宅にかかわる土地利用計画、住生活の改善に関する調査研究をつづけ、民間として稀有の建設大臣表彰をうけました。

▲本誌発行の趣旨▲

住宅戸数はすでに全世帯数を上まわり、しかも都市化がすすむなかで、私たちはより快適で充実した生活を求めています。掘り出された屋敷の中に豊かさを求めるだけでなく、膨大な資本の投下された市民のためのいろいろな都市の施設を、自分の生活の中に位置づけ上手に利用する方法を知ってほしいと思います。そのために、都市のいろいろの「しくみ」と使い方を西洋・日本の都市を事例にとりあげ、どなたにもあきることなくご理解いただけるよう、年二・三回の予定で編集発行していきます。

▲編集後記▲

○日本の公園は法制的には一〇〇年程度の歴史しかなく、しかも西洋にくらべ人口当りの面積、使い方もかなり劣っています。公園は都市の窓・肺・肝臓・腎臓の機能をもち都市のかけがえのない空間であることを認識いただき、身近にある公園を見直してほしいと思います。

○本誌でとりあげたいいろいろな公園にはそれぞれのおいたちと顔があります。ぜひお出かけいただき、遠い昔の姿に想いをはせながら今日の存在価値を味わってほしいと思います。

○「東京公園生活」の各公園の沿革については、加藤仁美先生(日本女子大学)の協力をいただきました。

(常務理事・徳田敦司)

City & Life No.2

●企画委員

日笠端(東京大学名誉教授) + 日端康雄(東京大学工学部都市工学科助教授) + 高橋公子(日本女子大学家政学部住居学科助教授) + 徳田敦司(当協会常務理事) + 三輪恒(当協会理事)

●1984年5月発行

■発行所・財団法人第一住宅建設協会

東京都中央区京橋2丁目4番12号
03-281-5773

編集協力・株式会社アルシーヴ社

エディトリアルデザイン・ライススタジオ

印刷・相互印刷工業株式会社

頒価・300円+送料200円

これから数回にわたって、まちづくりにちなんだ思い出ばなしをしていくことですが、皮切りはまず、戦後の大きな仕事のひとつになったオリンピック計画についてお話ししましょう。

日本人というのは、どうも昔からお祭り好きで、そういうことがないとなかなか力を出さないようですが、都市計画でも同じようなことが言えます。イヴェントというゴールがあるからこそエイヤツとやれるわけだし、予算も出る。東京オリンピックは、その意味ではぜっこのイヴェントだった。

私は主に施設づくりに携わったのですが、千駄ヶ谷の国立競技場を中心とする競技施設や、外国選手、観光客を運ぶためのモノレール・高速道路が、みんなオリンピックの開催に合わせてどつとつられた。環状6号線・7号線ができたのもこの時期でした。

で、選手村をどこにつくるかということになって、候補に上ったのが代々木のワシントン・ハイツというアメリカ軍の住宅団地です。戦前は練兵場でしたから、とにかく広がったわけです。オリンピックをやるからといっても、むこうはアメさんだからそう簡単にはどかない。それで、朝日新聞などでキャンペーンをはったりして、ようやく調布へ移ってもらうことができた。ところが、ここでも先だつものは予算。移転するのに当時で60～70億円かかるという。とても国だけじゃ買えない。ほんとには全部欲しかったわけですが、その移転にNHKが金を出してもいいというので一画を譲ることになった。それが現在、NHKの放送センターが建っている所です。

まちづくり 思い出ばなし ①

高山英華 東京オリンピック前後

今からみると、実にいい場所なんです。悔しい気持ちが残りましたね。

ところで、話はもどりますが、ワシントン・ハイツを選手村に建てかえて、オリンピックのあと森林公園につくり直したのが現在の代々木公園です。同じように公園でいえば、それまで野球場(元練兵場)だった場所を東京都が買い取ってつくったのが駒沢オリンピック公園。ここで東洋の魔女が金メダルを取ることになるわけです。

さて、オリンピックのおかげで、東京には何か所か緑地ができたのですが、とにかく、新宿と渋谷の間にあれだけの大きな緑地帯ができたことはよかったですね。防災面からみても、大いに助かっています。

これは余談になりますが、新宿と池袋の間の戸山ヶ原に、戦後動物園や公園をつくるという計画があったのです。結局住宅問題が先だということで、住宅を建てちゃった。計画は幻に終わったわけですがあの時緑地を残しておけば、渋谷から池袋にかけて、もっと広い緑地ができて、防災上にも非常に有利になったのですが……、残念ですね。(談)

[たかやま・えいか/東京大学名誉教授]



